

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園 5月えんだより**

5月聖句：「沖に漕ぎだし網をおろし、漁をなささい」

＜ルカによる福音書5章4節＞

今年は、桜の花が4月になっても咲き続け、春を長く感じられたのではないのでしょうか。新しい環境や新しい生活に、皆さん、お疲れはでいてませんか？心身を整えて5月を過ごしていきましょう。

さて、卒園した子ども達が3月の終わりに来てくれました。6年生の子ども達や高校生になった卒園児達は、見上げるほど身体も大きくなって驚くばかりでした。どれ程の出会いを繰り返し、大きくなったのだろうか？と、ふとそんなことを思いました。どれだけ大きくなって卒園児は可愛いですね。

「出会い」というのは大きな意味を持ちます。皆さんも数々の出会いが与えられてきたのではないのでしょうか。親や家族、又友人や同僚の仲間達や恩師など多くの出会いが与えられ、そしてその出会いが、人生において大きな意味を持つことがあった方も少なくないことでしょう。私達も偶然に、保育園に集い、同じ時を一緒に歩むのも正に「出会い」であり、神様の導きなのかもしれません。

今月の聖句は、一人の漁師がイエスと出会い、病の家族を癒していただきました。彼はイエスに感謝の思いを抱きますが「信じる」「信じ切る」までにはいたりません。その弟子は、漁に出て一匹も釣れずに帰ってきた際に、イエスと再会して言われました。「沖に漕ぎだして、網をおろし、漁をなささい。」今しがた朝から夕まで漁をしたが一匹もとれなかったのに、無理ですよ。弟子は心の中で思いましたが、「せっかくのお言葉ですから」と再度沖に出ると大漁となったという話です。

今は、正確さが求められ、スピードも求められ、エビデンスが求められる時代において、思い通りになるはずもない人間の歩みや育ちでさえも同様のことが求められることがあります。人間らしさとは、ありのままの姿とは何でしょうか？イエスは、出会う人そのものを尊い思いで受入れ、どんなに裏切られて、傷つけられようとも、見返りを求めず、大きな愛を与え続けたのでした。

子どもが子どもらしくとは、傷つけあっても、許しあい、喜びを一緒に嬉しいと喜び合い、人の悲しみを自分のことのように悲しみ、「お言葉ですから」とやってみようとする、精神的な自由が守られることが必要ではないかと思います。それは子ども達が、様々な出会いの中で泣き笑い、自ら考えて動き出すのを待つ長い目と、寛容な思いを大人がもつことに他ならないと思います。暖かくなる季節、子ども達の大きな声が響きあう毎日が続きますようにと祈ります。

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	だいじょうぶ	うごきだす
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・神さまに守られ、それぞれのペースで園生活に慣れていく。 ・お祈りやさんびかに親しみ、心地よさを感じる。 ・自然の音や色に気付いて触れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で、また保育者や友だちと一緒に好きな場所をみつけ、やりたい遊びに心を動かす。 ・日常の中で神さまが創造された世界を感じ感謝して祈る。 ・風、土、虫の命を感じるなど、身近な自然の中で探求するを楽しむ。
讃美歌	ことりたちは こども改 10	このはなのように こども改 115